

家庭菜園

あなたもチャレンジ



園芸研究家 成松次郎

カリフラワー 純白な花蕾を適期に収穫

図1 苗作り



図2 畑の準備

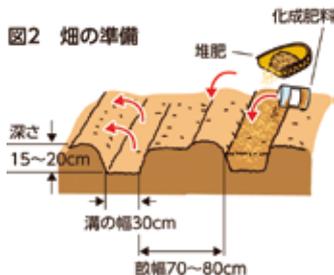


図3 植え付け

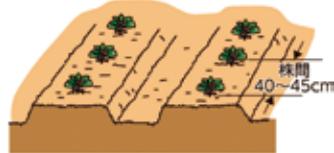


図4 追肥



図5 日よけ



図6 収穫



【品種】カリフラワーは花蕾がでるには、茎葉の大きさがある程度の低温が関係し、中生品種は早生品種に比べ、より進んだ生育と、より低い温度が必要です。そのため、長い間の収穫を楽しむには品種の使い分けが必要です。早生品種では「パロック」(サカタのタネ)、「スノークラウン」(タキイ種苗)、「雪まつり」(武蔵野種苗園)など、中生品種では「輝月」

【畑の準備】植え付け2週間前に、1平方m当たり苦土石灰100gをまいて、深く土を耕しておきます。1週間前に畝幅70〜80cm、深さ15〜20cmの溝を掘り、この溝1m当たり化成肥料(NPK各成分12%程度)100g程度と堆肥2kgを施し、土を戻してよく混ぜて畝を作り

ます(図2)。【植え付け】本葉5〜6枚の頃、株間40〜45cm程度に植え付けます(図3)。植え傷みが起こらないように、植え穴には十分水を注いでおきましょう。【追肥】植え付け20日後ごろに畝の片側に化成肥料を畝1m当たり50gくらいまいて、土寄せします。その20日後ごろに畝の反対側に同量を施用します(図4)。【病害虫の防除】ヨトウムシ、コナガなどが多いため「ディアンサ」または「アディオ」などで駆除します。【収穫】花蕾が見えたら、花蕾に日焼けや汚れが付かないように、外葉の1〜2枚を内側に折って花蕾に載せます(図5)。花蕾が12cm以上の大きさになり、つぼみの表面が緻密なうちに、外葉を6〜7枚付けて切り取ります(図6)。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

カリフラワーの生育適温は15〜20度といわれ、耐暑性、耐寒性のある野菜です。夏まき・秋冬取りが一年で最も作りやすい時期で、温暖地では7月中旬〜8月下旬が種まき期です。

【苗作り】直径7・5〜9cmのポリポットを使い1ポット当たり4〜5粒をまき、子葉展開時に密生部を間引き、本葉2〜3枚で1株に間引き、本葉5〜6枚まで育てます。128穴のセルトレイでは1穴2粒まき、間引いて本葉3〜4枚まで育てます(図1)。育苗期間中は、防虫ネットのトンネル被覆で害虫の飛来を防ぎます。

ます(図2)。【植え付け】本葉5〜6枚の頃、株間40〜45cm程度に植え付けます(図3)。植え傷みが起こらないように、植え穴には十分水を注いでおきましょう。【追肥】植え付け20日後ごろに畝の片側に化成肥料を畝1m当たり50gくらいまいて、土寄せします。その20日後ごろに畝の反対側に同量を施用します(図4)。

【病害虫の防除】ヨトウムシ、コナガなどが多いため「ディアンサ」または「アディオ」などで駆除します。

【収穫】花蕾が見えたら、花蕾に日焼けや汚れが付かないように、外葉の1〜2枚を内側に折って花蕾に載せます(図5)。花蕾が12cm以上の大きさになり、つぼみの表面が緻密なうちに、外葉を6〜7枚付けて切り取ります(図6)。

好評発売中

園芸書コーナー

家庭菜園の初心者から上級者まで、幅広い方におすすめの園芸書をご紹介します。野菜づくりの参考に、ぜひどうぞ!

ベストな収穫時期や収量を上げるコツなどを、種類ごとにわかりやすく紹介。

NEW プロに教わる 野菜の収穫・保存・加工の技とコツ 発売中 定価:1,760円(税込)

農家が伝授する、約50種類の野菜を最もおいしい状態で収穫するワザ。たくさん収穫した時に使える、鮮度を失わずに保存する方法や大量消費できる料理レシピも紹介。保存法は常温・冷蔵・加工など幅広く網羅。



お近くの支店へお申込みください。家の光図書館の情報はインターネットでもご覧いただけます。 <http://www.ienuohikari.net>